

30年ぶりのカンボジア大水害とSVAの救援・復興事業

曹洞宗国際ボランティア会(JSRC=SVA)
プノンペン事務所水害救援・復興タスクフォース
報告者:野田真里

はじめに

カンボジアでは9月中旬よりメコン川流域を中心に30年ぶりの大水害が発生、全国13州、国民の20%が被災した。SVAではカンボジア水害救援・復興タスクフォースを結成、会員の皆様に募金を呼びかけると共に現地9ヶ所で緊急救援活動を行ってきた。現在カンボジアでは深刻な食糧危機が予想されており「災害に強い村作り」にむけての復興支援が求められている。

1、水害の現状—死者169名、国民の20%が被災。各国政府、国際機関、NGOが救援活動

国家災害管理委員会(NDMC)の最新の情報(12月3日現在)によれば、カンボジア水害の被害は13州にも及んだ(地図参照)。中国、ラオスからのメコン川の氾濫によって引き起こされた今回の水害は、ラタナキリ州、ストウントレン州、クラティエ州などカンボジア北部から南下し、コンポンチャム州、カンダール州、プレイベン州で特に被害がひどかった。また、首都プノンペンでも川沿いの地域を中心に被災、一時は深刻な事態となった。また、スバイリエン州、タケオ州、カンポット州等でも集中豪雨等によって被害が出、バタンバン州、プルサット州、バンテミエンチェ州ではタイの洪水の影響が及んだ(地図1参照)。



この水害がカンボジアの国民生活におよぼした被害は甚大である。被災者は386,132家族、2,029,748人にも上り、国民の約20%が被害を受けたことになる。このうち、死者は169名で146,391家族、734,131人が深刻な食糧不足の状態にある807戸の民家が破壊された。農作物への影響も深刻で、28,991haの水田、4528haの畑が被害を

受けた。社会基盤では幹線道路は全長 38km、それ以外の小さい道路は全長 68,031km に渡って被害を受けた。また、学校は 173 棟が被害を受けている。

こうした水害に対し、カンボジア政府はラナリット、フンセン両首相の下に関係各省庁からなる「国家災害管理委員会」(NDMC、委員長:ニム・ヴァンダ大臣)が中心となって救援活動を行った。また、各国政府(日本、アメリカ、オーストラリア、シンガポール、中国、イギリス、フィリピン等)、国際機関(世界食糧計画、国連開発計画等)、NGO(カンボジア赤十字等、日本の団体としては SVA、AMDA、シェア)が救援活動にあたった。

2、SVA の救援活動ー スバイリエン州とカンダール州 9ヶ所で寺院を中心に支援



SVA ではこうした歴史的な水害に対し救援・復興活動を行うためカンボジア水害・復興タスクフォースを結成、東京事務所は直ちに募金活動を行った。また、カンボジア・プノンペン事務所は直ちに被害状況の調査にあたり、救援プロジェクトの立案に着手、寺委員会をはじめ州、郡、村等自治体といったカウンターパートの協力を得て救援活動を行った。スバイリエン州とカンダール州で対象地域は 9ヶ所、受益者は家族。米、プラスチックシート、薬などの救援物資の総額は 2,119,335 円である(水害救援事業一覧および地図 3 参照)。

こうした JSRC=SVA の水害救援活動は地元の住民や自治体はもとより、カンボジア王国政府からも高い評価を受けている(資料:ニム・ヴァンダ大臣からの謝辞参照)

対象地域の 9ヶ所はいずれも寺院が中心となって学校建設など社会開発を進めており、これまで SVA が支援を行ってきたご縁の深い地域。村の住職、檀家総代、村長の中には壊れた道を歩き、船を乗り継いで必死の思いでプノンペンの事務所まで救援を求めに来た人もいた。いずれの村でも寺の本堂や境内にある小学校が村人の避難所となっている。ほとんどの避難所では政府からの援助物資も届いておらず、食料、水などの基本的ニーズが不足していた。本堂や学校の限られたスペースに数百名がすし詰めで避難しており、居住環境は極めて劣悪。人間も家畜も一緒であり、トイレもなく衛生状態も悪い。阪神大震災の避難所もひどかったが、それ以上のひどさである。

いかに緊急救援とはいえ、カンボジアの村でものを配ることはかなり難しい作業である。ものを配れば必ず利害関係が生じるし、それが元で村のコミュニティーを破壊しかねないからだ。だが、SVA カンボジアが寺委員会をカウ

ターパートに選らんだのは大正解だった。寺は村人の集うコミュニティの中心であり、住民のニーズを日ごろからの確に把握している。公平・中立であり、村人からの信頼があつい。SVA が救援を行った寺ではきちんとした被災者リストが作られ、整然と物資の支給が行われ、不平不満が出ることはほとんどなかったのである。救援活動の中でも特に印象深かったケースを2つほど紹介したい。

3、「カンボジアのお盆に心からの贈り物」スバイリエン州プレイチュラック寺。

スバイリエン州に向かう国道 1 号線沿いの水田は完全に水没していた。道路は所々破壊され、道端には避難民や家畜が粗末な小屋を建てて避難している。スバイリエン市街のほぼ中央に位置するプレイチュラック寺には約 450 家族が避難生活をしていた。この寺の住職は SVA ともご縁の深いカンボジアを代表する開発僧のニェム・キムテン師である。寺の隣の小学校も SVA が支援したものだが、ここにも約 200 家族が避難している。スバイリエン市街は深いところで腰まで水に浸かり、船まで出ている。市場は水没し魚釣りをしている人までいる。この日はちょうどカンボジアのお盆「プチュンバン」であり、SVA カンボジアのローカルスタッフは休み。私と三部師(SVA 参与)の 2 人がカウンターパートであるキムテン師の NGO「サンティ・セナ」と救援活動を行うはめになった(三部師は途中帰国)。準備に丸 2 日を費やしずいぶん手間取ったものの、スバイリエン州知事参列のもと何とか贈呈式までこぎつけ、物資の配布を始めた。

だが、実はプレイチュラック寺での水害救援は当初かなり混乱した。このころは救援活動を始めたばかりで SVA もサンティ・セナも不慣れだったため、避難民をうまく誘導できなかったのだ。つまりは準備不足である。また、市街であったため避難民でない人も物資欲しさに押しかけた。配布活動は遅々として進まず日没、いったん中断のアナウンスをした。ここで避難民のイライラが爆発、人々が押しかけ一時は騒然となった。村長や警察官そしてキムテン師までもが説得するがおさまらない。私はいたたまれなくなり村人に対して「私は混乱を招くためにきたのではありません。プレイチュラック寺の皆さんに平和を、カンボジアに平和を」とつたないクメール語で挨拶し村人の間を歩いた。翌日、物資の配給を再開したときは昨夜の混乱がまるで嘘のようにスムーズに作業が進んだ。サンティ・セナのスタッフも夜遅くまで反省会を開き、色々と配布方法について工夫したようだ。物資の配給がすんだ



翌日は「プチュンバン」祭り、厳しい生活を送る避難民の間につかの間の笑顔が戻った。「プチュンバン」とは文字どおり訳せば「米を集めて分かち合う」の意味。折りしも避難民の人々には SVA からの救援物資が「プチュンバン」(米の分かち合い)となったわけだ。祭りの儀式が始まり、私も参列し村人から食べ物の寄進を受けた。お祭りの後、ある避難民のご婦人が言った「今日のご飯はおいしかったですか。これは昨日 SVA の水害救援で頂いたお米なんですよ。私たちもありがたく頂きました」。救援活動に来た私だが、じつはカンボジアの人々と「生かし生かされている」ことを実感させられた。

4、「水害にあっても頂いた学校はみんなで直しました」スバイリエン州チアルッセイ寺

スバイリエン市街からボートをチャーターして運河を渡ること約1時間、ベトナム国境沿いにチアルッセイ寺はある。村にいたる水田は完全に水没、どこが運河でどこが水田かわからない状態だ。寺の本堂および境内にある小学校には約 100 家族が避難していた。チアルッセイには曹洞宗宮城県青年会の支援で SVA が小学校を支援、「シャンティ増刊号」でも紹介されたなじみのある村だ。住職のソクバン師は 78 歳の高齢で立つのがやっとにもかかわらず、村人のために思い、この困難な道をわざわざ SVA プノンペン事務所まで救援要請のために訪問してくださった



のである。チアルッセイの場合は寺委員会を中心に非常によく組織化され、SVA が事前に避難民のリスト作りなど適切なアドバイスをしたこともあって救援は大成功に終わった。後日、村にモニタリングに訪れた際、チアルッセイ小学校のソーケン校長先生から次のようなお礼のメッセージを頂いた。「村人を代表して SVA の皆様に心からお礼を申し上げます。お寺の住職はいつも村人に SVA の水害救援のことを話して聞かせています。私たちの村は水害に遭いましたが、こういう困難な状況でも子供たちが学校で勉強できるように親御さんたちと協力しています。頂いた校舎にも被害が出ましたが村人総出で修理しました。学校を建てていただいた後も、今でも宮城の皆さんや SVA の皆さんが私たちの事を思って水害救援をしてくださった事を本当に感謝しています」。学校を寄贈することは実はそれで終わりではなく、日本とカンボジアの間の村と村、地域と地域との長い関わりの第 1 歩なのだ。

5、「災害に強い村作り」にむけて

現在、ほとんどの被災地の村では水も引き、落ち着きを取り戻しつつあるかにみえる。メコン川沿いの地域では乾期米の田植えが始まったところもある。だが、現実の復興過程は厳しいものがある。村人はなけなしの身の回りのものを売ったり、魚を捕ったり、町へ出稼ぎに行ったりしてなんとかその日の糧を得ているのが現状である。それでも

米が足りない場合は来年のための種籾を食いつぶしたり、仲買人から超高利で米を借りている。よって、仮に乾期米が取れたとしてもその後には膨大な借金の返済が待っている。だが、それでも乾期米が作れるところはまだまだで、スバイリエン州など水利の悪い地域では深刻な食糧不足が生じることは間違いない。

SVA カンボジアでは今回救援を行った地域すべてについて事業のモニタリング調査及び評価を行い、特に復興支援が必要な地域 4 ヶ所を選定した(水害救援事業一覧参照)。これらの地域では単に一時的なその場しのぎの復興支援をおこなうのではなく、「災害に強い村作り」にむけての持続可能な復興支援を目指して事業計画を立案中である。第 1 に、寺委員会をカウンターパートにえらんだことが救援事業の成功の要因であったことに示されるように、平時からコミュニティがしっかりしているところは、災害にも強い(これは阪神大震災の経験からもいえることである)。今後ともこれらの地域で教育・文化を中心とした社会開発を促進し「寺院を核としたカンボジアの伝統に根ざしたコミュニティ」の強化を図っていききたい。第 2 に、地域レベルでの防災体制の強化である。国家災害管理委員会では国家レベルのみならず県、郡、地区、村のそれぞれのレベルで災害管理を行う体制を整えつつある。こうした行政の動きとも歩調を合わせ、住民参加型の防災体制を強化していく必要がある。第 3 に、食料の安全保障が重要である。食料、特に米はカンボジア人の生活にとって不可欠であり、災害時においても外部の援助や仲買人に頼るのでなく、ある程度村の内部で自給できるような食糧確保のシステムが必要である。具体的には SVA カンボジアでは米銀行の事業を推奨している。

最後に、SVA ではこれまでの水害救援活動の成果を踏まえ、阪神大震災やハピタット II での経験をも活かしつつ、カンボジアの被災地の「災害に強い村作り」にむけての復興支援を行っていきます。今後とも皆様のご支援を心よりお願いいたします。

ニム・ヴァンダ大臣(国家災害管理委員会委員長)からの謝辞

カンボジア国民を代表して曹洞宗国際ボランティア会(JSRC=SVA)の水害救援事業に対し、心より感謝の意を表したいと思います。SVA からは教育、文化の面で多くの支援を頂いており国王陛下や両首相などもその活動をご視察になり高く評価されています。このたび、カンボジアは 30 年ぶりの水害に見舞われ、その被害は全国 13 の州、83 郡、617 地域にも及びました。そうした困難な状況の中で SVA は民衆に直接手を差し伸べる効果的な支援をしていただきました。我々としてはこうした SVA の活動を高く評価し、政府が作成する水害のレポートの中でもぜひ紹介したいと考えています。今後被災地では深刻な食糧不足が予想されています。カンボジア王国政府としては地方行政や国際機関、NGO と協力して災害に強い社会づくりのためのキャパシティ・ビルディングを行っていききたいと思えます。SVA が今後ともカウンターパートとしてスバイリエン州など復興支援が必要な地域において、カンボジア王国政府とともに水害復興事業に従事されることを心より期待しております。

(1996 年 12 月 3 日、プノンペン、国家災害管理委員会にて)

6、JSRC=SVA 水害救援事業一覧及び収支決算

1、①水害救援事業一覧

案件番号	実施日	所在地	受益世帯数	米(Kg)	菜(Kg)	その他	支出金額(円)	学校寄贈者(年)
1	10月7日	カンタール州クサイカンタール郡フレックアンビル地区フレッククラハウ村	950	9,100	0	なし	420,095	
2	10月11日	スハイリエン州スハイリエン市SK NO. 2地区NO. 3村	654	6,500	0	ビニールシート、ロープ100	236,325	田中氏、鳥取県曹洞宗青年会('94)
*3	10月24日	カンタール州クサイカンタール郡フレックアンビル地区フレックアンビル村	600	6,600	6	なし	235,405	
4	10月21日	スハイリエン州スハイチュロム郡カンホンチャムラン郡チアルッセイ村	150	2,475	3	木材3立方m	160,080	宮城県曹洞宗青年会('93)
*5	10月29日	スハイリエン州スハイチュロム郡スハイトム地区ホーピア村	462	7,623	7	なし	261,165	大森氏('96)
6	10月29日	スハイリエン州スハイチュロム郡ハエルユット地区ターサン村	284	4,686	0	なし	136,850	
7	11月4日	カンタール県クサイカンタール郡スハイチュロム地区スハイチュロム村	804	8,844	6	なし	310,730	越前屋('94)
*8	11月19日	スハイリエン州ロミヤハエック郡ドン地区チアティア村	389	6,419	6	なし	209,185	WCRP('94)
*9	11月20日	スハイリエン州スハイチュロム郡スハイトム地区スハイトム村	260	4,290	6	なし	149,500	広島フェニックスライオンズクラブ('96)
合 計			4553	56,537	34		2,119,335	

* 印復興支援予定地域

1% = 115円

②収支決算

収入の部 5,679,607 円

水害救援募金 3,179,607

事業助成金(自治労本部/日本教職員組合/鹿野平和財団/日産労連/金光教本部教庁) 2,500,000

支出の部 2,649,169 円

緊急救援事業費 2,119,335

事業調整管理費 529,834

収支差額 3,030,438 円

※収支差額は、『カンボジア水害農村復興開発支援事業費』に充当させていただきます。

(地図2) カンボジア、スライレン、スバク、スバク、スバク XEP及JSRC-SVA 水害被災地域



(地図1)

■カンボジア水害被害地域

- アミ部分が被災地域 (6月15日現在)
- ▨ 被災日付 (12月3日現在)



合流地点より下。2つの河の周囲が全て水没。

国境沿い。スヴァイリエンの街まで。